

子どもと大人と一緒に
ICTを活用して
地域課題を
解決する

郡上ICTクラブ

郡上ICTクラブ協議会
代表団体：特定非営利活動法人HUBGUJO



令和3年度 A I 人材連携による
中小企業課題解決促進事業
「『ニューノーマル』に対応したデジタル関連部活に
対する新たな支援モデルの検証」
成果発表資料

事業者名 特定非営利活動法人 H U B G U J O

クラブ名 郡上ICTクラブ

発表日 令和4年3月7日

地域をけん引するICT人材育成プロジェクト P B L (Project Based Learning)

視点

地域の課題を解決

P B L

地域がフィールド

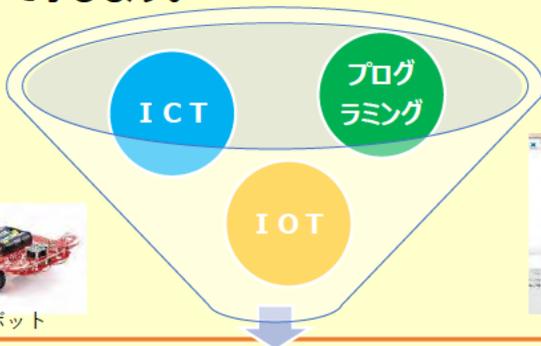
生徒が自主的に問題に出会いテーマを決め、課題の解決策を考えます。ICT、IOT、プログラミングを使って解決するプロセスの中で学びます。



IOTセンサー



ロボット



ドローン



課題解決へ

地場産業 × 地域課題

農業

観光

福祉

水産業

林業

地域がフィールド

テクノロジーを使って課題解決

目的は「正解・解答のある課題に取り組み知識・技能を得ること」ではなく、「正解のない議論（課題）を通して問題解いへのアプローチ方法を身につけること」です。最終的に「主体的・協働的に問題を発見し、解決する能力」をICT、IOTを活用して養います。



① 地域へ出向き、問題に出会い、テーマを決める

② 実践的・論理的手法によって解決策を考える

③ 相互に話し合い、何を調べるのか明確にする

④ ICT, IOTの知識を問題に適用する

⑤ プログラミングを駆使して解決する。

※ P B L (課題解決型学習) とは、Project Based Learning の略

地方の新しい価値を創造する拠点 HUBGUJOの coworking スペース。

2017年3月、清流・吉田川の河畔に、最新の設備とセキュリティを備えた coworking スペースが誕生しました。企業のサテライトオフィスとしても、個人の coworking スペースとしてもご利用いただける充実の環境が整っています。人と自然が寄り添う郡上で、都会とは違う働き方を試してください。モチベーションが上がり、生産性も向上するでしょう。また、各企業や個人が独立して働き、時にはアイデアや情報を交換することで思いがけない相乗効果が生まれたり、地元の人や企業との交流や連携などを通して新しいビジネスの芽が膨らむ可能性も秘めています。郡上だから発信できる新しいクリエイションやイノベーションが、ここから生まれます。



すぐ下を流れる吉田川で、仕事の合間に川に降りてリラックス。ウッドデッキで気分転換。対岸には最新マシンとプールを備えた総合スポーツセンターがあります。



郡上クリエイティブテレワークセンター

- ／サテライトオフィス3室
- ／コワーキングスペース
- ／テレビ会議室
- ／ストックルーム
- ／プライベートBOX4席



コワーキングスペースで新しい働き方にチャレンジしよう。

どこでも働けるようになった現代、「どこで暮らしてどう働くか」を選ぶ時代。HUBGUJOは、新しいワークスタイルとライフスタイルを発信。サテライト・オフィスを開設可能なシェアオフィスとコワーキングスペースを運営しています。



都会にしかないものがある。
だからこそ郡上にしかない働き方と暮らし方があります。

オープンエアなオフィス環境。城下町、里山文化、人とのつながりがクリエイティブを刺激します。



光インターネット
デジタルデバイス
高度なセキュリティ
環境を整備
LAN(VPN)
入室管理システム



サテライトオフィス

常駐できる個室に近い専有スペースです。移動用テレビ会議システムも使用できます。



ストックルーム

例えば趣味のギアを置いておく、HUBGUJOを一步出ればエキサイティングな余暇のスタートです。



水と踊りの町郡上八幡にテレワーカーの新しい拠点『HUBGUJO』がオープン!

郡上市が運営するモデルテレワークハウスでは、IT企業等のサテライトオフィスの実証が可能です。



会議室

テレビ会議システムを使って本社やクライアントとリアルな会議が可能です。



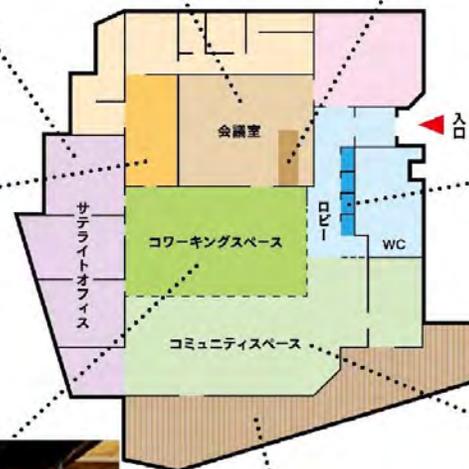
ものづくりエリア

郡上には豊かな「水」と「森」があります。新しい商品開発に挑戦できます。



セキュリティ

出入り口の要所には、入室管理システムを設置。



プライベートBOX

インターネットで電話がはじまったら、PCを持って入室。集中してミーティングが可能です。



コミュニティスペース

地方にある地域資源を目の前にして、リアルな事業の構築が可能です。



リバービューのデッキエリア

川のせせらぎをBGMに新しいアイデアを発想する贅沢な空間。



実施内容 - 実施体制

取り組む課題の提供者

(中小企業等)

<メンター派遣>

-
1. 特定非営利活動法人HUBGUJO
 - 所在地：岐阜県郡上市八幡町
 - 事業概要：地域課題解決型事業の創出
 - 想定する課題：ICTを駆使して地域課題を解決する人材育成
 2. 一般社団法人
Itoshiro Commons
 - 所在地：岐阜県郡上市白鳥町
 - 事業概要：限界集落等の交通弱者がもつ課題解決事業を推進中
 - 想定する課題：限界集落における高齢者を中心とした交通弱者支援
 3. 山路剛史 株式会社Sun Asterisk
 - 所在地：東京都千代田区
 - 事業概要：総勢1500名のデジタル・クリエイティブスタジオ
 - 想定する課題：誰もが価値創造に夢中になれる世界
 4. 平野彰秀 特定非営利活動法人地域再生機構
 - 所在地：岐阜県恵那市
 - 事業概要：地域の自治を再生を通じて、持続可能な社会の実現を目指す
 - 想定する課題：持続可能社会への転換「小さな地域から持続可能社会をつくっていく」
 5. Shamrock Records株式会社
 - 所在地：東京都練馬区
 - 事業概要：ソフトウェア開発
 - 想定する課題：聴覚障害者等を中心にインクルーシブな社会参画を可能にするアクセシビリティ
 6. 有限会社グループーム
 - 所在地：岐阜県郡上市大和町
 - 事業概要：スマートフォン・Webアプリケーション開発
 - 想定する課題：ICT活用による地場産業の活性化

実施内容 – 支援モデル検証事業内容

全体の概要

概要

アイデアソンテーマ：新入生に好きな部活に通うための交通手段をプレゼントしたい！

題材となる地域の企業の課題

- ICTを駆使して**地域課題を解決する人材育成**
- 限界集落における高齢者を中心とした**交通弱者支援**
- 誰もが**価値創造に夢中になれる世界**
- 聴覚障がい者等を中心に**インクルーシブな社会参画を可能にするアクセシビリティの向上**
- 小さな地域から**持続可能社会**をつくっていく

アイデアソンのアウトプット概要

- 動機及び目標の明示
- ゴールの設定
- ペルソナの設定
- 現状の分析
- 解決策の提案（※テクノロジーの活用イメージ）

実施内容 – 支援モデル検証事業内容

全体の概要

詳細

郡上ICTクラブの学び場づくり

- **課題解決型学習（PBL）で探究するデジタル部活動**の環境整備と実施方式の検討

実施するうえで必要なスキル習得のカリキュラムの実施

- **PBLノウハウを修得しICTを生かす**基礎講座の開催

学校部活動に対する指導・助言

- **学校の教室からオンラインでデジタル部活動に参加可能にする方式を実証**

アイデアソンの開催

- **オンラインデジタルツールをふんだんに活用**した運営、管理、実施
- 生徒の主体性を重視した企画立案、運営、実施
- **発表会の実施**：7チームによる成果発表
- 発表会に於いて**審査員からの講評**

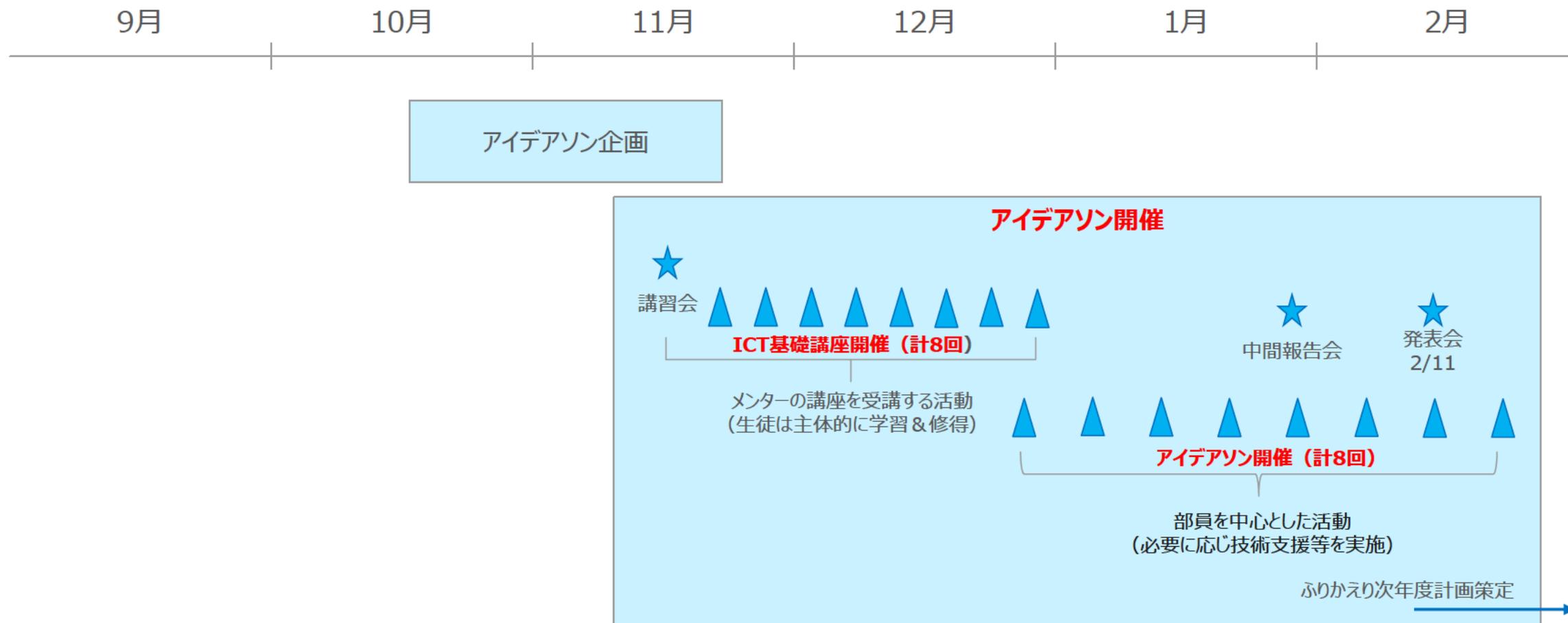
実施内容 – 実施体制

支援対象となる デジタル関連部活動

1. 郡上ICTクラブ
(広域的課外部活動)
 - 所在地：岐阜県郡上市八幡町
 - 部員：61名（3高校合計）
 - 特徴：以下の3つの高校の生徒の参加による広域的部活動の構築及び高校連携を推進
- 1-1. 郡上北高校 郡上ICTクラブ
 - 所在地：岐阜県郡上市白鳥町
 - 部員：46名
 - 特徴：企業連携による課題解決型学びの場を長年にわたって多角的に展開

- 1-2. 郡上高校 郡上ICTクラブ
 - 所在地：岐阜県郡上市八幡町
 - 部員：9名
 - 特徴：地域人材との連携を積極的に進め、ふるさと教育を実践
- 1-3. N高等学校 郡上ICTクラブ
 - 所在地：沖縄県うるま市
 - 部員：6名
 - 特徴：ネットの高校の自由な風土のもと地域の高校生と協働するPBL活動を実践

実施内容 – 実施スケジュール



実施内容 - 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その4 (最終アウトプットとしてのアイデアソン)

テーマ : 「地方における交通弱者が抱える課題を解決する」

開催日程

- (1/5) 「アイデアソン説明会」企画構成会議
- (1/7) アイデアソン講座 説明会
- (1/14) アイデアソン講座 第1回
- (1/21) アイデアソン講座 第2回
- (1/28) アイデアソン講座 第3回
- (2/7) アイデアソン講座 第4回
- (2/11) アイデアソン発表会
- (2/18) アイデアソン反省会 & 今後の活動計画

※詳細は別紙『議事録日報一覧』

PROJECT



新入生が好きな部活に通える 交通手段をプレゼントしたい！ ZOOMアイデアソン開催説明会

経済産業省デジタル関連部活検証モデル採択事業

<アイデアソン参加特典>

- ◎ 「デジタル部活アイデアソン参加認定証」授与
- ◎ 所属高校の先生に進路資料への記載&推薦文等を依頼

1月7日(金)キックオフミーティングから、
2月11日(金)の発表会に向けて活動する
地域課題解決型アイデアソン『ProjectG』。
テーマ「好きな部活に通うための交通手段を何とかしたい！」
その解決策を編み出すイベントです。
『これを解決したら『神』だよな?』なんて言われて
しまうほどに郡上の高校生を長年悩ませてきた問題です。
この問題を解決するべく開催するアイデアソンです。

※アイデアソンとは? : 課題を解決するアイデアをチームで
力を合わせて提案する探究型&事業開発型のイベントです



- ◎ 説明会開催日時: 1月7日(金) 20:00~21:30
- ◎ 開催場所: ZOOMミーティング
- ※ 以下の参加登録フォーム(QRコード)からメールアドレスを入力してください。
当日のZOOM開催URLをご連絡します。
- ◎ 参加費: 無料
- ◎ 主催: 郡上ICTクラブ
- ◎ 事務局: HUB GUJO

郡上の高校生たちが、今ぶちあたってる
交通の壁を打ち明けます!



地域をけん引するICT人材育成プロジェクトを3つの視点から設計

①ふるさと教育 ②遠隔教育 ③PBL

学びの場

ふるさと教育

地域&多世代との交流

地域の活性化に貢献する「地域社会人」として活躍する人材育成

地域の課題解決型事
業者から直接取材



教員、元教員、PT
A、高齢者、保護者
がメンター、サポーター
として参加



複数の拠点をテレビ会議システムで中継して実施

多拠点同時開催

遠隔教育

地域の課題を解決

PBL

地域がフィールド

生徒が自主的に問題に出会いテーマを決め、課題の解決策を考えます。AI、ICT、IOTセンサー、プログラミングを使って解決するプロセスの中で学びます。



マイクロチップ



ロボット



ドローン



地場産業 × 地域課題



地域がフィールド

*PBL (課題解決型学習) とはProblem Based Learning の略

テレビ会議システム

実施内容 – 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その4（最終アウトプットとしてのアイデアソン）

アイデアソン講座の設計と運営実施も参加生徒の学びに繋げる

**地域社会を牽引する人材に求められる企画力と実践力を修得するために
講座の実施に必要な準備と運営実施についても生徒の学びの場となるように講座を設計した**

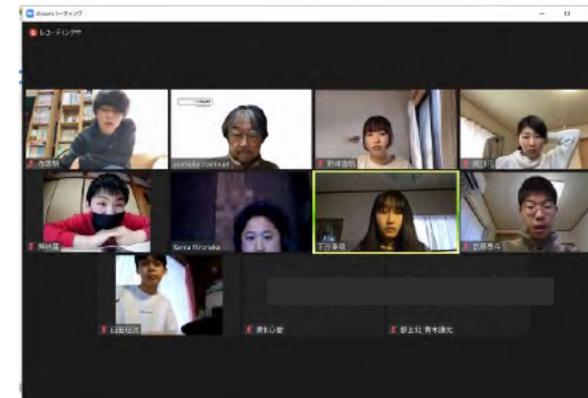
- 生徒の主体的な参加を重要視して生徒の提案によるテーマ設定を行った
- 主体的な参加を促すために講座の内容について議論しながら企画を立案した
- 日常的な地域の課題を議論することで、『自分ごと』としてアプローチする実践方法を体験できるようにした
- 講座運営、開催準備、広報活動、講座実施において必要となるデジタルツールの活用講座を随時開催した
- 講座運営、開催準備、広報活動、講座実施において必要となるスキル修得講座を随時開催した
- テクノロジーの活用事例を学ぶICT基礎講座を開催した

実施内容 – 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その4（最終アウトプットとしてのアイデアソン）

(1/5) 「アイデアソン説明会」企画構成会議

- イベントのコンセプト策定、企画立案
- 構成の作成
- アジェンダの作成
- 参加募集用フライヤーの検証
- オンラインイベントの留意事項とプレゼンシートの作成会議
- 各担当者決定



(1/7) アイデアソン説明会

- 生徒による司会進行
- 開発チームによるプレゼンシートの発表
- 実証チームによるプレゼンシートの発表
- 参加要領の説明
- インセンティブの説明



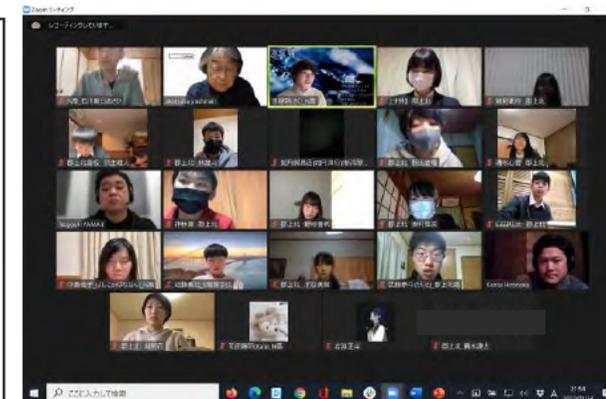
実施内容 – 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その4 (最終アウトプットとしてのアイデアソン)

(1/14) アイデアソン第1回 講座

- チームメンバーの決定
- チームごとにブレイクアウトルームでディスカッション
- チームメンバーと「発見した課題」を議論
- チームメンバーと「具体的な問題」を議論
- チームメンバーと「解決された状態(ゴール)」を議論

①住民間の助け合い (不安) <ul style="list-style-type: none">GPS、ドライブレコーダーなどを利用、目的地まで送り届けたかの証拠を取る家出る際どうしたら楽せたいと思うのかサポーターに認定書を注す	③住民間の助け合い (アプリ) <ul style="list-style-type: none">アプリを使って送ってくれる人を集める「一緒に送学送迎しようアプリ」の開発相乗りを促るマッチングアプリの開発公共交通との共存策を考える
②公共交通 <ul style="list-style-type: none">高校バスをもっと利用してもらうコストの安価な移動手段の半数を増やす乗りやすいバスを目指すバスや電車の時刻表を交互にし、乗り遅れてももう一方の交通手段でカバーできるようにする	④乗り合いデマンド交通 <ul style="list-style-type: none">アンケートを実施して利用者の多い時間帯に運行させる(バス)移動する時間帯が同じ近隣の人のネットワーク
	⑤その他 <ul style="list-style-type: none">交通費や実証実験のことももらって色んな人に知ってもらったり一緒に考えたりする都上の人口数



(1/21) アイデアソン第2回 講座

- テーマごとにブレイクアウトルームでディスカッション
- チームメンバー最終決定
- 「ペルソナ」策定の重要性の共有
- チームごとに決定した「発見した課題」、「具体的な問題」、「ペルソナ」、「ゴール」について発表



実施内容 - 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その4 (最終アウトプットとしてのアイデアソン)

(1/28) アイデアソン第3回 講座

- 協力企業JTB様による先進事例『二次交通問題事例共有』の発表
- 各チームのテーマ発表
- グループワーク (発見した課題、ペルソナ、ゴールの検証)
- 発表会の仕様を共有
- 役割分担の確認



(2/7) アイデアソン第4回 講座

- グループワーク (テーマ・ディスカッション)
- 各チームごとにプレゼン・デモンストレーションの実施
- メンターからのフィードバックおよびアドバイス
- 発表内容の再検証
- 発表会のアジェンダ確認



実施内容 - 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その4 (最終アウトプットとしてのアイデアソン)

(2/11) アイデアソン発表会

- 主旨説明
- イベント全体の流れ共有
- 審査員紹介
- 発表&質疑応答 (7チーム)
- 審査発表&講評



出場チーム&発表テーマ

No.	チーム名	テーマ	メンバー
1	交通	交通難を知ってもらおう	上村和、清水心愛、鷲見更紗
2	asahi	権利を追求する	石川朝日
3	公共交通	原付免許と公共交通の共存	下谷美鷲、近藤勇杜、中島佳子
4	know-g	交通難×観光 レルバの旅	瀧朋花、新井耀人
5	神林・杉本	つながる場所を作ろう	神林蓮、杉本芽依
6	デマンド交通	ひたすら周り続けるバス「ぐじょんノカー」	野崎香帆、奥村優菜、藤田愛羅
7	共助アプリrm	共助アプリ開発	岩淵正斗、林雄斗

審査員の方々

鹿野 利春様 岡野 泰久様 熊崎 孝之様



経済産業省



実施内容 – 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その4（最終アウトプットとしてのアイデアソン）

(2/18) アイデアソン反省会

- 発表会の振り返り
- 各自改善点及び共感点の発表
- メンターによるフィードバック
- 今後へ活かし方
- 継続事業計画立案を共有



実施内容 - 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その2 (実施するうえで必要なスキル習得のカリキュラム)

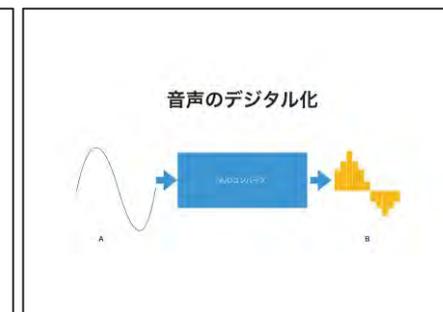
PBLノウハウを修得しICTを生かす基礎講座の開催

PBLノウハウを修得する基礎講座

- (11/17) 実証チーム及び開発チーム 実証活動課題検証講座 ロボカップチーム発表会
- (12/14) 実証チーム及び開発チーム 地域交通プロジェクト再構成会議 1
- (12/21) 実証チーム及び開発チーム会議 地域交通プロジェクト再構成会議 2
- (12/24) 企画制作講座 テーマ：イベント企画構成 (イベント企画立案)
- (12/28) 企画制作講座 テーマ：広告企画制作 (広報物製作)

ICTを生かす基礎講座

- (12/1) 講座 『NFCタグセンサーを使ったアイデアソン講座』
- (12/8) 講座 『音で学ぶデジタルとアナログ講座』
- (12/15) 講座 『AIに魂は宿るのか』



実施内容 – 支援モデル検証事業内容

詳細 - 実施内容その1 (郡上ICTクラブの学び場づくり)

課題解決型学習 (PBL) で探究するデジタル部活動の方針

PBLアプローチのメリットを地域社会で共有

- **地域経済を持続的に運営するICT人材の育成と輩出**を目指す
- 地域社会の持続的な運営を可能とする地域課題を解決する学び方から、参加生徒のICT修得への強い動機づけ形成を支援

参加生徒が可能な限り講座の運営に関わり参加する方式を推奨、子どもと大人が協力して探究学習を可能にする体制づくりを

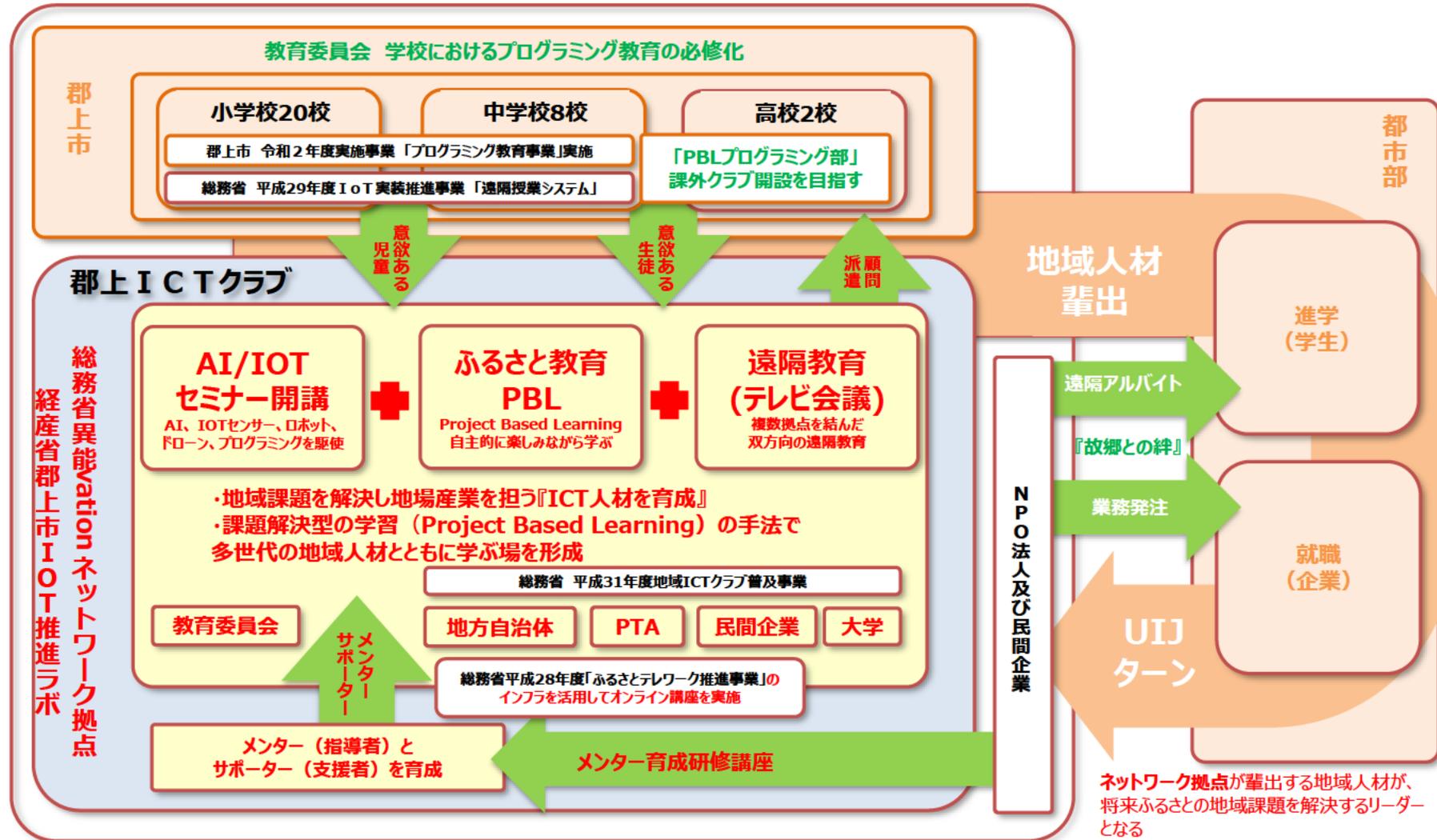
- クラブ運営、講座設計、講座実施に生徒が主体的に参加する方式を採用
※メンターから講座運営のノウハウ (**テーマ&アジェンダ設定、講座用パネル資料製作、シナリオ作成、募集チラシ作成、学び場づくり、参加体験型学習の仕組み**) を学習する

すべての活動をオンラインで実施可能に

- 少子化の元で単独の学校で多様な部活動を維持するのは困難な状況が進んでいるもとで、生徒の選択肢の確保と挑戦するフィールドを確保するために、講座は**オンラインで設計及び実施して、複数の学校の生徒が参加できるクラブ活動を推進**する

地方の課題を解決するICT人材の育成プロジェクト 郡上ICTクラブ

地域課題に挑戦し地場産業の後継者となる『ICT人材』を育成する学びの場をつくります。



自走 / 展開に向けた示唆

次年度以降の自走に向けたポイント

中高生の参加機会を増やす

- 年度初めに地域課題に関するアンケート調査を中高校生対象に実施し、地域課題をICTで解決することに関心を集める
- **高校との連携関係を密にして教員の積極的な協力（デジタル部活動の意義の啓発と参加への推薦）を促す**
- 広域行政下の地方に高校生にとって活動場所への移動が最大の難題である。そのためオンライン型のデジタル部活動は生産性が高い。そこで重要となるのは通信インフラが整備された参加条件を満たした拠点が必要である。特に、当事業のような学校外の**地域連携型の部活動に対して学校の教室及び学校の通信環境の開放**を要請する

クラブ活動運営人材の確保

- 現在の**オンラインコミュニティを生かし卒業者が技術指導者としてクラブ活動に関与できる仕組みを構築**する。
- オンライン型の活動を生かして**メンターを全国から募集**する

クラブ活動運営資金とデバイスの確保

- デジタル関連部活（特にプログラミング）に於いては、タブレットではなくパソコンが必須の教材であるのに高校生の保有率が低い。**改善（パソコンを貸与するなど）が必須。**
- **クラブ活動の持続が優秀な人材の採用機会となる**という認識を地場産業と共有して運営支援を要請。
- 協賛企業の人事予算を当クラブへ向けて投資を依頼。

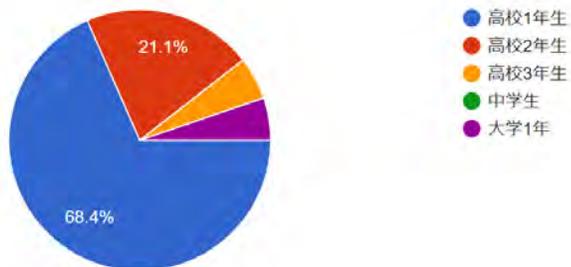
地域社会との連携の促進

- 実証実験の実績を生かして、地域課題を解決できる可能性を地域社会に発信し、地域課題の認知を広め、地域内外から協力者を募る。
- 地域の交通に関する取り決めを審議する「郡上市地域公共交通会議」と連携しながら、当該地域にとって必要な移動手段を検討。

4. 参考資料 アイデアソン説明会参加者アンケート

学年を教えてください

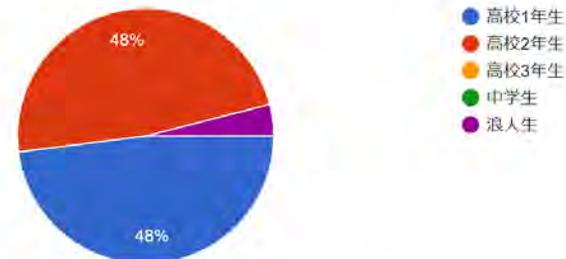
19件の回答



アイデアソン参加申込アンケート

学年を教えてください

25件の回答



テーマ「地域の交通」に関して「1. 解決したい課題」、「2. 提案したいアイデア」をお書きください。※チーム編成時に参考にします

25件の回答

1バスの本数、運賃の改定

2みんなで通学通勤しようアプリの開発～移動する時間帯が同じ近所の人のチャット～

1.交通難で入りたい部活を諦めてしまう

2.ICTクラブのようなオンラインで活動できる部活

僕は白鳥交通を利用しているが自分が乗りたい時間帯にバスが来ないことがある。

会社側の事情はあるかもしれないが、主にバスを使う高校生にアンケートをとって一番良い時間に自由にバスに乗れるようにしたいと思う。これにより部活に行く人だけでなく、部活から帰る人も待ち時間が長くなって済み、親さんの送り迎えも負担が減ると思うから。

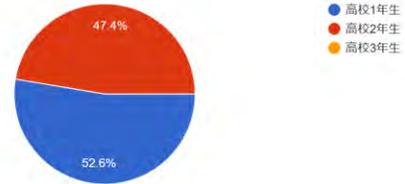
さっさと変更させて頂きたいです 2.提案したいアイデア

自分自身長良川鉄道を利用したことがなくて、他県の地下鉄とかは利用したことがあります。このことから車や他の交通手段でなく長良川鉄道を比較的に利用してもらえるような案を考えていけるようにしたいです。課題としては「長良川鉄道を使うメリット、利点、理由」について個人的に考えていきたいです。例えば郡上の施設（スキー場など）に行くために使うとかが今思いつきます。本数を増やすためにはまず利用者が必要だと思うので利用者を増やすために具体的なメリットが大切だと思うのでアプリとかを作る時や、ディスカッションの際に提案していきたいと思えます。

4. 参考資料 アイデアソン発表会 参加者アンケート

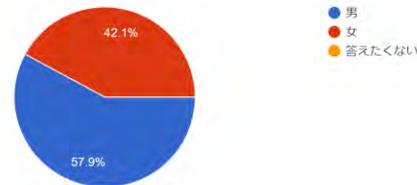
学年を教えてください

19件の回答



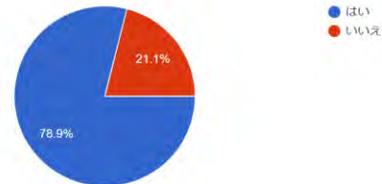
性別を教えてください

19件の回答



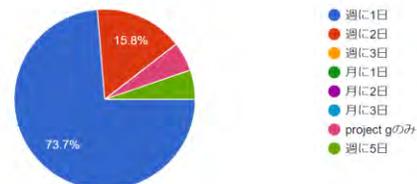
(1) ICTクラブの活動以外に、別の部活動・クラブ活動に入っていますか？

19件の回答



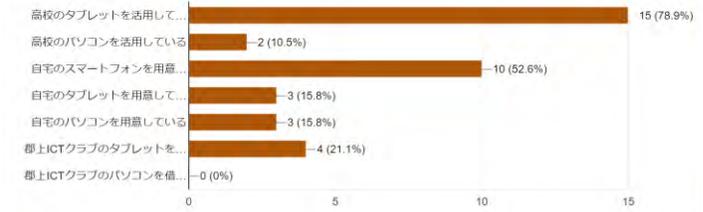
(2) ICTクラブの活動日程は以下のどれにあたりますか？

19件の回答



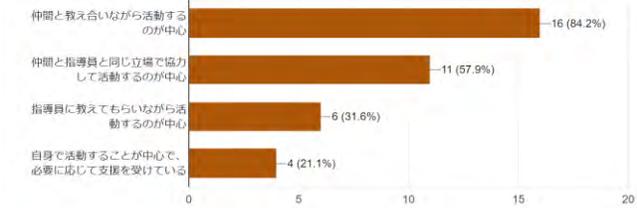
(3) 活動に必要な機材や教材はどのように用意していますか？ (複数選択可)

19件の回答



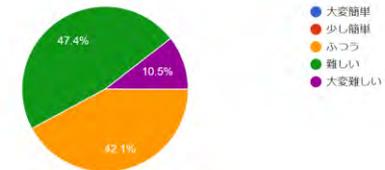
(4) ICTクラブではどのような形で活動していますか？ (複数選択可)

19件の回答



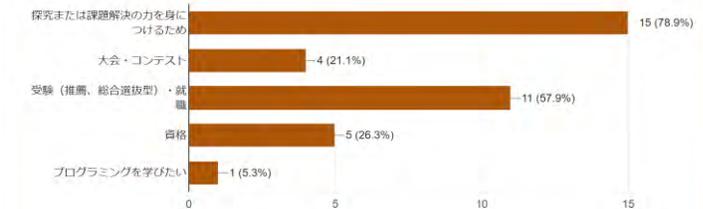
(5) ICTクラブでの活動や学びの難易度はどのように感じていますか？ (学校の授業や、もし
他で学んでいる場合はそこと比較して)

19件の回答



(6) 何を目標に活動していますか？ (複数選択可)

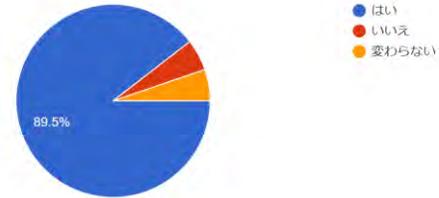
19件の回答



4. 参考資料 アイデアソン発表会 参加者アンケート

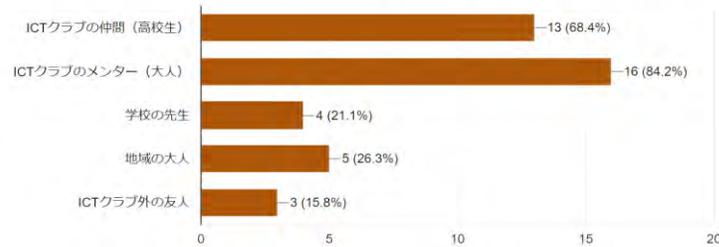
(7) ICTクラブでの活動は、普通の学校に比べて社会や社会人と関われていると感じますか？

19件の回答



(8) 活動するうえで技術的な面、並びに社会課題を解決するにあたっての社会課題の理解や解決方法の面、それぞれ誰からどのように学べていると感じていますか？（複数選択可）

19件の回答



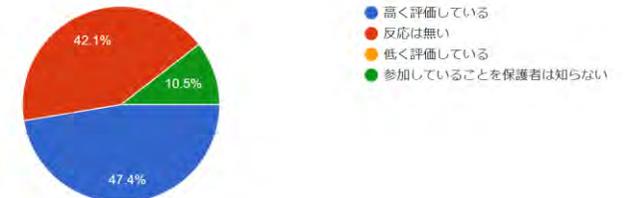
(9) ICTクラブで、もっと学びたい/物足りないと感じている部分はありますか？

19件の回答

- 特になし
- 人数
- プログラム ビジネス
- プログラミングを学んでいますが、タブレットだからパソコンと違って難しく、対応出来てない場面もある。
- ほかの議題で話してみたい
- ないです。
- 人が足りない
- 様々な社会問題の解決を話し合いたい！
- ※ 横 マニインド

(10) ICTクラブに参加していることに対して保護者はどのように反応していますか？

19件の回答



(11) ICTクラブでの活動を、将来どのように活かしていきたいと考えていますか？もしくは、あまりつながらないと考えていますか？

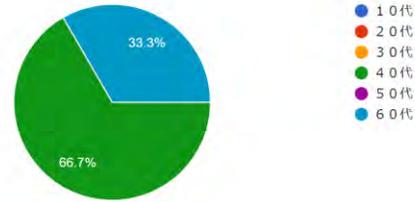
19件の回答

- 人数を多くして、実現できるように解決していきたい
- 私は将来の夢があまり決まっていない。ここでの経験を何かに役立つと思って活動しています。今は楽しいが1番ですけど笑
- 私自身交通が問題で送り迎えが必要な部活、好きな部活が選べなかったので後輩にそんな思いをさせたくない。この活動を通して自分ができる所まで高めて、将来にも繋げていきたい。
- まとめた内容をプレゼンする力
- コミュニケーション力が身につけることができたので、日頃から人と話すことに活かしていきたいです。
- 地域創生
- 問題解決能力を活かしていきたい
- 郡上で公務員になりたいから、大変繋がると思います！

4. 参考資料 アイデアソン メンターアンケート

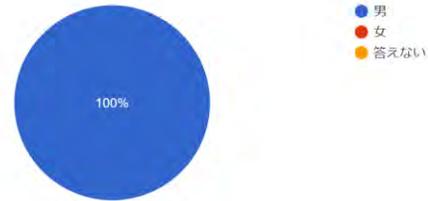
年齢を教えてください

6件の回答



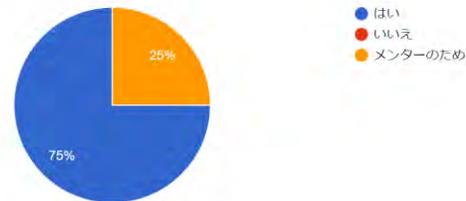
性別を教えてください

6件の回答



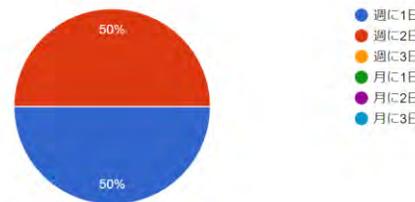
(1) ICTクラブの活動以外に、別の部活動・クラブ活動に参加していますか？

4件の回答



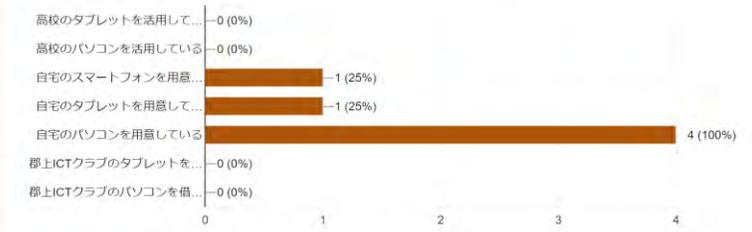
(2) ICTクラブの活動日程は以下のどれにあたりますか？

4件の回答



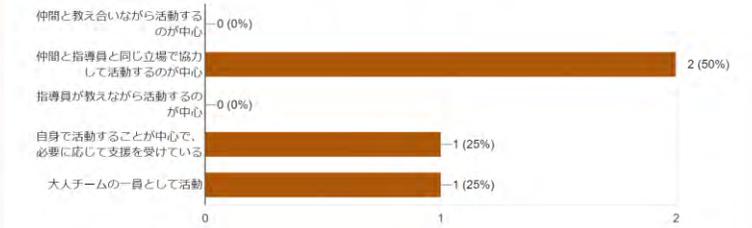
(3) 活動に必要な機材や教材はどのように用意していますか？ (複数選択可)

4件の回答



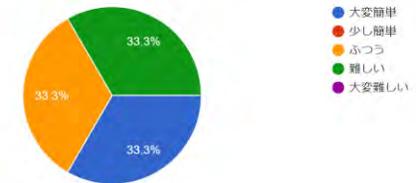
(4) ICTクラブではどのような形で活動していますか？ (複数選択可)

4件の回答



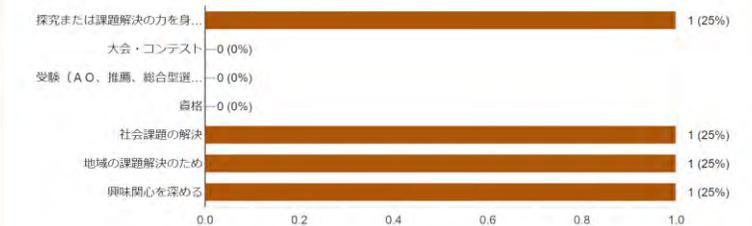
(5) ICTクラブでの活動や学びの難易度はどのように感じていますか？ (学校の授業や、もし他で学んでいる場合はそこと比較して)

3件の回答



(6) 何を目標に活動していますか？ (複数選択可)

4件の回答



4. 参考資料 アイデアソン メンターアンケート

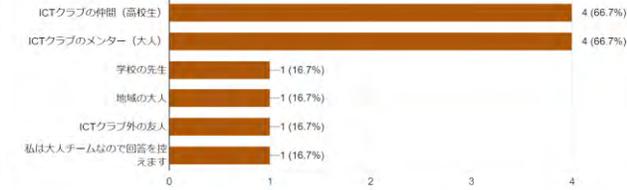
(7) ICTクラブでの活動は、普通の学校に比べて社会や社会人と関わっていると感じますか？

6件の回答



(8) 活動するうえで技術的な面、並びに社会課題を解決するにあたっての社会課題の理解や解決方法の面、それぞれ誰からどのように学んでいると感じていますか？（複数選択可）

6件の回答



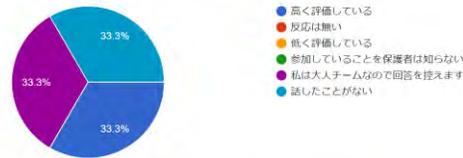
(9) ICTクラブで、もっと学びたい/物足りないと感じている部分がありますか？

2件の回答

- 私は大人チームなので回答を控えます
- 参加生徒がICTクラブの活動時間をもっとたくさん取ってほしいと感じている

(10) ICTクラブに参加していることに対して保護者はどのように反応していますか？

3件の回答



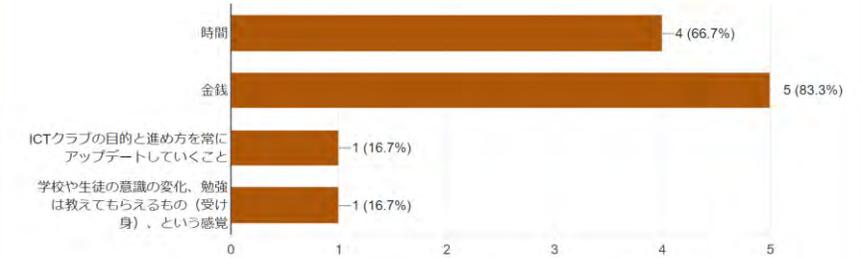
(11) ICTクラブでの活動を、将来どのように活かしていきたいと考えていますか？もしくは、あまりつながらないと考えていますか？

6件の回答

- 社会との接続
あまり意義は認めずいまこのタイミングで「楽しい」って思ってくれればいいです。
- 私は大人チームなので回答を控えます
- 地域の課題解決に繋げていきたい
授業でテストのために覚えてすぐ忘れてしまうことより、自分の興味関心で知ろうと思ったことはよほど将来のためになると思う
課題解決、実践、事業創出、楽しいことを創ることに生かしてほしい

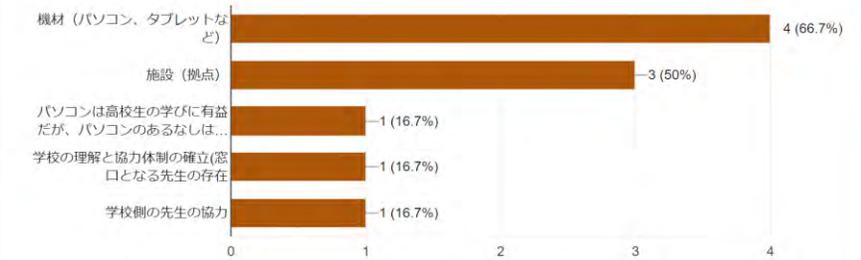
(12) ICTクラブを「持続可能」な取り組みにするうえでどのような点が重要と考えていますか？（※資源）

6件の回答



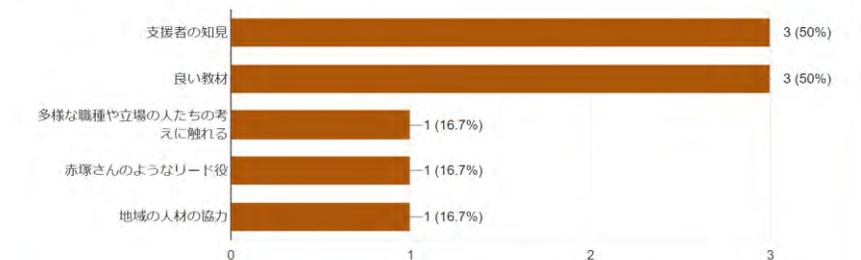
(13) ICTクラブを「持続可能」な取り組みにするうえでどのような点が重要と考えているか？（※環境）活動の自由度を担保するうえで、重要な設備や環境条件はありますか？

6件の回答



(14) ICTクラブを「持続可能」な取り組みにするうえでどのような点が重要と考えているか？（※内容）活動の質を担保するうえで、何が重要ですか？

6件の回答



4. 参考資料 アイデアソンメンターアンケート

(15)ICTクラブに参加されているメンターの皆様において、どのような点をプラスに考え参加されていますか？

6件の回答

地域課題の解決方法を、地域の学生と共に考え行動できること。ICTの基礎的な考えを学べること

知りたいと思う生徒がいるなら教えたい

社会課題解決に向けた取り組みに関われること、若者の教育に関われること

高校生との接点はなかなか持てないので楽しい

社会との接続、若者の伸び

高校生が地域社会のリーダーとして活躍できるようになるのを楽しみにして参加している。地方経済においてICT人材不足は深刻であり、ICTスキルの高い人材の供給が急がれる。

(16)ICTクラブに参加されているメンターの皆様において、どのような点は負担に感じていますか？

6件の回答

特になし

せめて謝礼くらいは出す仕組みが欲しいですね。業務にされる（日報を付けるとかの義務がつく）のならいないですけど。どちらかと言えば、生徒や保護者の受ける側の感覚の問題として。

平日の昼間に時間を割くことはなかなか難しかったです

特に負担はないです。

新型コロナによる接触規制

クラブ活動の準備と実施にもっと時間を割きたいが出来ない。理由は金銭的な収入の問題。現状ではクラブ活動は慈善活動であり、生業の時間を短縮すると個人的な家計を維持できない。

(17)ICTクラブに参加されているメンターの皆様において、今後同様のモデルを全国にさらに展開、持続していくうえで、何があると良いと感じていますか？

6件の回答

学校との連携強化、PCなどハード面の整備、メンターの確保、最低限の活動資金の確保

保護者も含めた交流会とか情報交換とかあるといいんじゃないですかね。

赤塚さんのようなリード役がどこにでもいるわけではないため、学校がリード役になるべき地域も多くあると思われます。学校の先生が全てを実施するのではなく、あくまでリード役として、地域の企業や個人を巻き込みながら進めていただきたいです。賛同者は現れると思います。

あんまり展開とか考えず今の子どもたちが楽しんでくれれば良いと思う。

この先10年の日本を予想した教育の取り組み

高校生の動機付け&インセンティブ（特に進学や就職へ強く結びつく社会的&制度的な仕組み）+地域のメンターとクラブ活動運営団体への金銭的な支援+オンラインを活用した専門的なメンターの派遣、教材の無償提供、等。

(18)ICTクラブに参加されているメンターの皆様において、政府・教育委員会・学校等に求めることがあれば教えてください。

6件の回答

お互いに組織が違うからとバラバラに動くのではなく、相談したり、協力できるといいですね。

この領域において、政府はいわゆる「小さな政府」になるべきと考えております。教育委員会や学校は、多様な教育に向けて、学校の裁量を拡大する方向に動いてほしいと考えております。

活動を理解してくださり、惜しみなく協力してくださった熊崎先生なくしては、この活動はここまでの広がりがなかったのではないかといい、とても心強い存在でした。本当に感謝しています。ありがとうございました！

大学入試のシステムを変えないと高校教育は変わらない。変えられない。今の日本に何が必要かを今一度徹底論議して、日本の教育の在り方を考え直すべき。大学は経営がかかっているため、現状のシステムを変えないとしないだろう。しかし、大学教育も学生の質的低下でギリギリのところまで来ている。じゃあ、それを変えるのは中等教育の改革しかない。（と現行の指導要領でも歌ったはずなのだが！）

高校生の動機付け&インセンティブ（特に進学や就職へ強く結びつく社会的&制度的な仕組み）+地域在住のメンターとクラブ活動運営団体への金銭的な支援（補助金または企業からの寄付が増える仕組みの構築）+オンラインを活用した専門的なメンターの派遣、教材の無償提供、等。

Ict Club

HubGujo

赤塚 朔

- N高等学校
- 1年生
- 将来は企業を持ちたい
- 世の中の仕組みを知りたい
- 事業を知りたい
- ITツールを使いこなしたい

神林 蓮

- 郡上北高校
- 2年生
- 学校まで片道40分
- 交通の不便さを少しでも解決したい
- プログラミングなど新しい分野を学ぶ
- 将来の自分の武器にする

野崎 香帆

- 郡上北高校
- 1年生
- 私と同じ思いを後輩にさせない
- 運動部に入りたかった
- 親の負担を考え断念
- 交通面で高校選択を左右させたくない

瀧 朋花

- 郡上北高校
- 2年生
- 中学の頃からいろんな活動に参加
- ICTツールには触れてこなかった
- 好奇心でICTクラブに参加

ICTクラブの魅力

1. PBL型学習

2. オンラインでの活動

3. クラブならではの活動

1.PBL型学習

答えが一つではない課題に
対してチームで課題解決するまでの道筋を考える



1.PBL型学習

答えが一つではない課題に
対してチームで課題解決するまでの道筋を考える



高校での班別活動で役立った
様々な視点から物事を見るようになった



2. オンラインでの活動

- ・ コロナ禍でも活動
- ・ 社会人、他校の高校生など多くの人と交流
- ・ 貴重な体験のきっかけ
- ・ 人に伝える能力が上昇

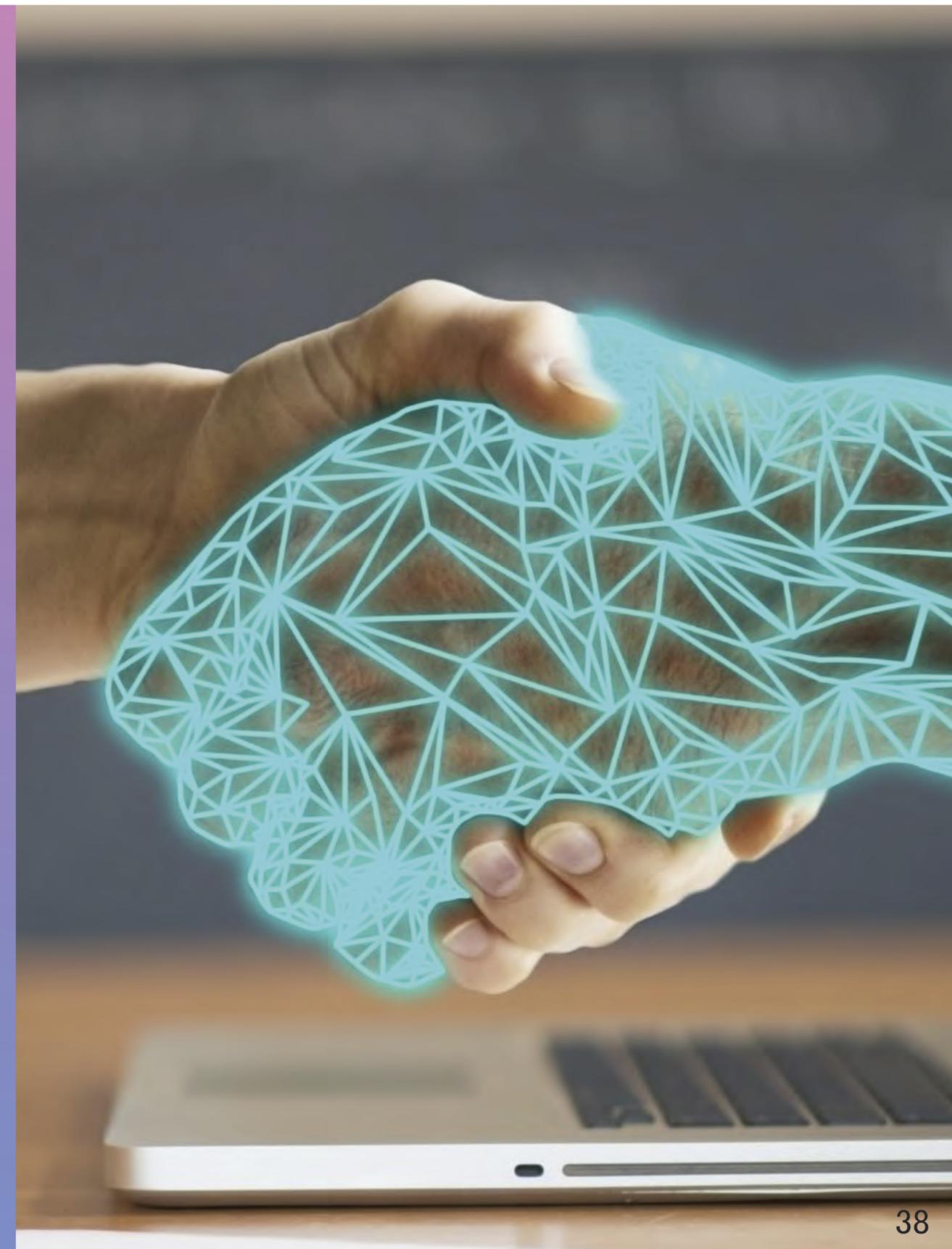


3. クラブならではの活動

開発環境が整っていないメンバー

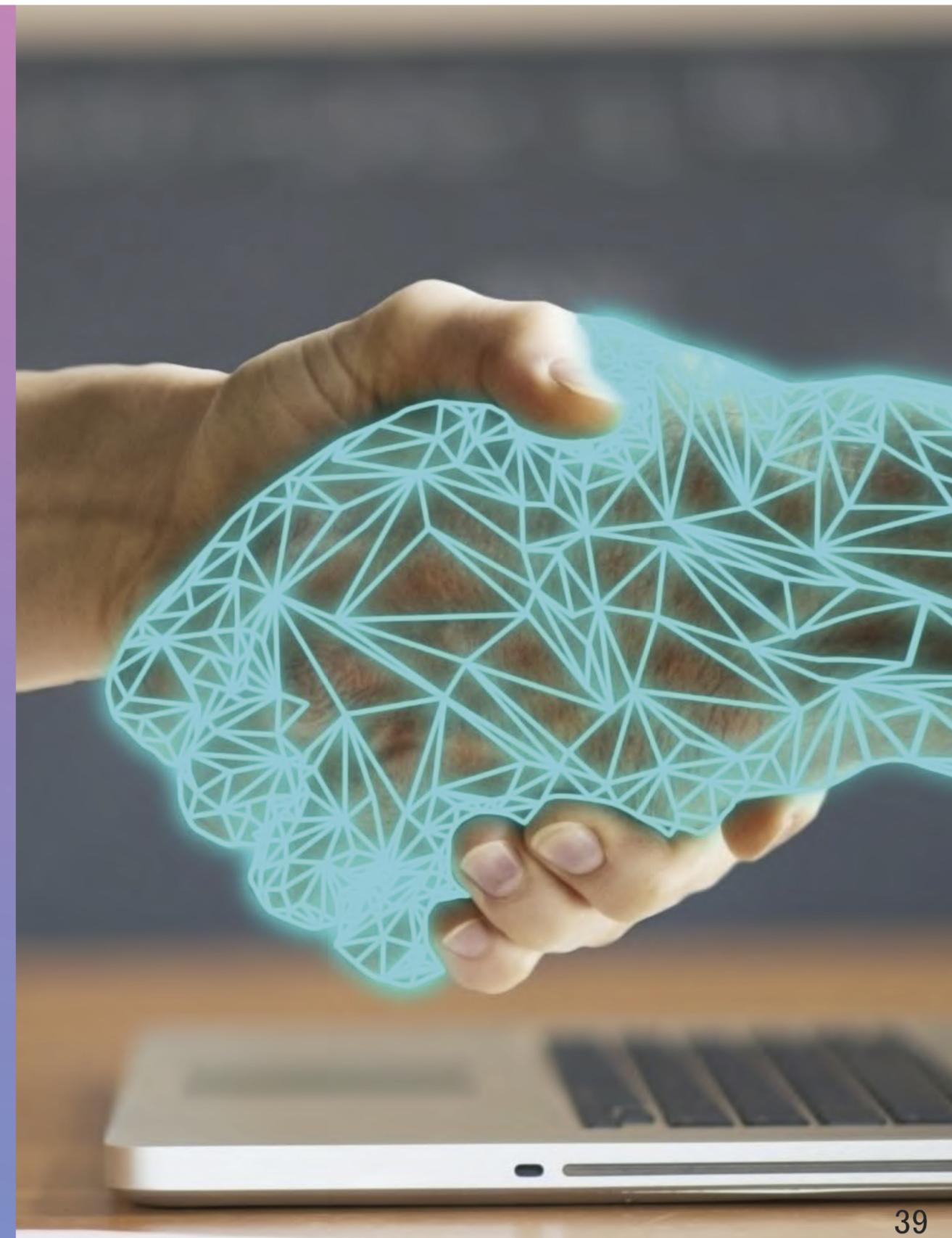


クラブからiPadを貸し出す



3. クラブならではの活動

- ・ チーム内で連携 → slack, GoogleDrive
- ・ プレゼン → powerpoint, canva
- ・ 日々の活動 → zoom
- ・ プログラミング → kintone, codepen



困っていること

1.時間

- ・時間の確保が難しい
- ・活動する時間帯の遅さ

困っていること

2. 学校の理解

困っていること

3.自由に使える機材がない

意見



意見

より良いものにするには



後輩などの新メンバーが必要

意見

メンバーを増やすために

- クラスに紹介
- 親、学校の理解を深める
- 説明会を設ける



ここで途切れさせたくない

A woman with long dark hair, wearing a dark t-shirt and jeans, stands in a meeting room, gesturing towards a whiteboard. The whiteboard displays a bar chart with five bars of varying heights and a pie chart below it. Several people are seated around a table in the foreground, looking towards the presenter. The scene is overlaid with a semi-transparent blue filter.

活動のメリットを学校に提示
推奨をしていただきたい



親も学校も一緒に進められる活動に…